

moe・ryoku / 緑のふるさと協力隊・遠山陽子さんの鮫川村体験記



1. 竹で作った風車。竹細工名人の緑川末治さん（内ヶ竜）に教えていただきました。
2. つる籠作りを教えていただいた蛭田吉郎さん（田野上）と一緒に。



3. いり大豆を使ったビーンズチョコ。いり大豆の香ばしさとチョコレートの相性が最高です。
4. バレンタインデーに向けて試作したガズミジャム入りのチョコレート。

マイペースに 日々の生活をかみしめる

ついに鮫川村での生活も両手で数えられるほどになってきました。いろいろな方に「あとちょっとだね」と言われるのですが、言われている本人が一番自覚がありません。マイペースに日々の生活を最後までかみしめていきたいと思っています。

バレンタインデーでは、宣言通り鮫川のものを使ってチョコレートを作りました。いり大豆を入れたクランチチョコや豆乳ときな粉を使った生チョコなど。私だけでは味に自信がなかったので、試作品を味見してもらいつつ実験してみました。味見をしていただいた

皆さん、本当にありがとうございます。このほかに、アケビのつる籠作りや竹の風車作りなどに挑戦させていたいただきました。アケビのつる籠は作るまでの材料集めが大変だと思いましたが、でも、実際に林に入って教えてもらうのが、想像以上にアケビのつるがたくさん。秋だったら実がたくさんついていたので、実がたくさんついていたので、なあと想像したり……。でも葉っぱがついていないので、どれがアケビでどれが藤なのか私には全く分かりませんでした。作った籠は思った以上に大きくなりましたが、かっこいいものができたと自画自賛。どんなふう

Message

里山景観と調和したデザインに

さざり荘の県建築文化賞復興賞の受賞は、本当にうれしく思います。なぜなら、この賞はさざり荘単体がいただいた賞ではなく、鮫川村のこれまでの取り組みそのものが評価されたものにほかならないからです。私はさざり荘を設計するに際して、まず何より美しい鮫川村の里山景観を損なうことのないよう、意味のない自己主張に見えないよう、細心の注意を払って外観のデザインをしました。それはほかでもなく、私や私の家族が鮫川村を好きだったからです。日本中から不必要な便利と引き換えに大切なものが失われていく中、鮫川村にはしっかりとそれらが残っています。これは大いなる誇りだと思います。東京に住む者が何を言うのかという感じですが、だからこそ心の故郷であり続けてほしいと思いますし、さざり荘の設計にはそういう思い



上垣内伸一 一級建築士
ウエガイト建築設計事務所

がぎっしり込められています。これは村民の皆さんが受賞した賞です。

環境に調和し、景観上優れた建築物をたたえる第三十回福島県建築文化賞の復興賞に村民保養施設「さざり荘」が選ばれました。
さざり荘は平成二十三年四月に建替工事が完了。それ以降、村内外から多くの利用者が訪れ、地域の復興などに寄与した建築物と認められ今回の受賞となりました。
受賞にあたり、さざり荘の建築設計を行った上垣内伸一さんから鮫川村にメッセージが寄せられました。



受賞した村民保養施設「さざり荘」。鮫川村の里山景観と調和した美しい外観デザインで、間伐材を利用した薪ボイラーを活用することで環境に配慮した施設となっています。

村民保養施設「さざり荘」が 県建築文化賞復興賞を受賞

視覚障がいを持つ方の 音声による情報取得を支援

ボランティア団体「たすけあいネット・さめがわ」は、一月から視覚障がいを持つ方の情報取得を支援する活動を始めました。
同団体のボランティアスタッフが広報紙などの活字をバーコード（音声コード）に変換し、ハガキに印刷。視覚障がいを持つ希望者に郵送します。希望者は音声コードを専用の読み取り機械にかざすことで自動的に内容が読み上げられ、情報を得ることがができます。現在は、「広報さめがわ」およびお知らせ版「ほつと通信」、「議会だより」について、音声コードへの変換作業を行っています。



活字文書読み上げ装置。音声コードが印刷されたハガキを機械にかざすことで、音声によって情報を得ることができます。

視覚障がいを持ち音声コードの送付を希望する方は、たすけあいネット・さめがわにお問い合わせください。
なお、専用の読み取り機械については各個人で購入する必要があり。視覚障がい二級以上の方は「日常生活用具給付制度」を活用し、一割の自己負担で購入することができます。制度の詳細については、役場住民福祉課福祉係にお問い合わせてください。
【音声コード】たすけあいネット・さめがわ（明日飛学園） ☎49・3344
【機械購入】村民福祉課福祉係 ☎49・3113